

# 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」成果取組概要

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称:障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

## 課題・ニーズ・背景等

スポーツ基本法 基本理念:

「障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう  
障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進する」  
しかし・・・

○障害者のスポーツ参加は、競技スポーツとして一部の身体障害者に限られている。

○障害が重い人ほど様々な専門家の支援を受けているが、  
スポーツへの支援はニーズが高くて不十分である。

理由:「職員が少ない」「適切な指導者がいない」など  
以上のことから、

障害者が生涯にわたってスポーツへ参加できるよう、障害特性  
やライフステージ、スポーツの目的などに応じて支援できる人材  
育成が必要である。

本事業の目的は、その人材を育成するための全国的な標準  
モデルカリキュラムと達成度評価基準を開発することである。

## 取組の概要

1. 調査  
重度コミュニケーション障害者へのスポーツ取組  
状況とニーズに関する調査  
○訪問によるインタビュー調査(高次脳機能障害)  
○郵送によるアンケート調査(発達障害)
2. 実証  
モデルカリキュラムの開発・達成度評価基準の設定  
○新受講生に対するカリキュラムの実践  
○受講生への効果判定  
○受講生及び協力者(障害者)の波及効果の検証
3. 会議  
○実施委員会  
分科会代表者会議で取りまとめられた事項を審議  
○分科会代表者会議  
各分科会での実践計画と実践結果を審議

## 成果目標(アウトカム)

初年度(昨年度)

- 障害者スポーツ資源の実態調査結果
- 福祉施設介護職員に対する実態調査結果
- 中核的人材・達成目標の試案
- モデルカリキュラムの開発**



2年目(今年度)

- 重度コミュニケーション障害者スポーツの実態調査結果
- 中核的人材・達成目標の明確化
- モデルカリキュラムの開発(改訂)・実証**
- 達成度評価基準の設定**
- 全国的な標準モデルカリキュラムへの改訂・実証

## 体制イメージ図

医療・福祉・健康(スポーツ)分野における  
中核的専門人材育成事業

スポーツ  
医療

障害者  
スポーツ

教育カリキュラム開発

協力機関連携

効果判定

ニーズ調査

## 参加・協力機関等

- 大阪保健医療大学
- 大阪リハビリテーション専門学校
- 大阪サッカークラブ株式会社
- セレッソ大阪スポーツクラブ
- 大阪市手をつなく会育成会東成育成園
- 水仙福祉会
- 北摂杉の子会
- 地域ゆめの会
- 障がい児者自立生活支援協議会サンネット
- ヒューマンライツ福祉協会
- 大阪リハビリテーション専門学校校友会

# 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」取組成果概要

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称:障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

## 取組内容

1. 調査
  - 訪問によるインタビュー調査  
全国の脳損傷友の会関連団体から紹介され、本調査への協力を得た高次脳機能障害の専門家計20名へスポーツ取組状況とニーズについて訪問によるインタビュー調査を行った。
  - 郵送によるアンケート調査  
全国の発達障害支援センター(88カ所)で勤務する専門家へスポーツ取組状況とニーズについて郵送によるアンケート調査を行った。  
回収数40、回収率45.5%であった。
2. 実証
  - 平成24年度開発したカリキュラムを新受講生33名(今年度から対象を拡大した)へ実践した。  
実施期間:9月28日~12月21日  
内容:
    - ・講義と演習(16h)
    - ・体験学習  
アセスメント実習(4h)  
小規模障害者スポーツ教室見学実習(4h)  
中規模障害者スポーツ教室運営実習(6h)  
大規模障害者スポーツ大会企画運営実習(6h)
    - ・報告会と講義(8h)
  - 受講生へモデルカリキュラム受講前後に質問紙による評価を行った。その結果に基づき、モデルカリキュラムの改定及び達成評価基準の設定を行った。
  - 協力者(障害者)の体験学習へ協力したことによる変化(効果)について標準化された評価表を用いて評価を行った。結果は、波及効果を検証するだけでなく、本カリキュラムの効果判定モジュールの開発にも活用した。
3. 会議
  - 実施委員会(全6回)
  - 分科会代表者会議(全15回)

## 本年度の成果

H24

○モデルカリキュラムの開発

課題

- ・中核的人材の定義(狭義の設定)
- ・達成目標の立案(漠然とした設定)
- ・必要な態度・知識・技能/技術(実証不十分)

H25

○達成度評価基準の設定  
○モデルカリキュラムの開発(改訂)・実証

- ・中核的人材の修正
- ・達成目標の修正
- ・必要な態度・知識・技能/技術の実証
- ・学習ユニット積み上げ方式の構築

## 成果の活用・次年度の課題等

### 【成果の活用例】

- 大阪リハビリテーション作業療法学科にて正規のカリキュラムとしてH26年度から活用
- 大阪保健医療大学の卒業研究論文及び大阪保健医療大学大学院の特別研究にて効果判定モジュールをH26年度から活用
- モデルカリキュラムの全国標準化を目指して大阪府内以外の他の地域での実証

### 【課題】

- スキル水準Ⅲ、学習ユニット3までのモデルカリキュラムにとどまっている。今後は、高度専門人材を育成するためのモデルカリキュラムの開発が必要である。
- 障害者が生涯にわたってスポーツへ参加する要因を明らかにする必要がある。

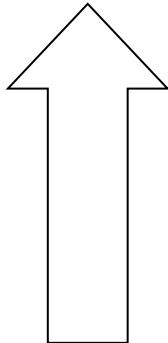
# 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称:障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

## モデルカリキュラムのイメージ

### 学習ユニット積み上げ方式

高度専門  
人材



中核的  
人材

#### 学習ユニット4. 参加者に応じたスポーツ指導ができる

- ①参加者に応じた対応・指導
- ②競技性の向上に向けた指導

#### 学習ユニット3. 効果判定が出来る

- ①効果判定が出来る
- ②効果を第三者に伝えることが出来る

#### 学習ユニット2. リスク管理が出来る

#### 学習ユニット1. スポーツをする環境調整が出来る

- ①自己の準備性
- ②ハード・ソフト面の調整・準備

# 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称:障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

## モデルカリキュラムのイメージ(詳細)

科目名	取り組みへの自己の準備性を確認しよう	障害者スポーツイベントを広報しよう	障害者スポーツイベントの準備をしよう	障害者を深く理解しよう	リスク管理の知識・技術を高めよう	障害者スポーツへの理解を深めよう	障害者スポーツ資源開発の仕方について理解しよう	学習成果を報告しよう
学習方法								
講義		広報のポイントを学ぶ 伝わる広報 理解される広報	準備と運営のポイントを学ぶ 準備とは何か 運営上の注意事項	障害者の特性 認知機能 運動機能	リスク管理を学ぶ リスク管理とは何か 対応方法	障害者スポーツの実態と課題	障害者スポーツ資源開発の実践例	
演習*	①作業バランス 及び健康感 ②クドバスチャートの 仕事カードと能力 カードを自己評価し、 自己の準備性を確認	広報媒体の作成プレ ゼンテーション	運営企画書作成 プレゼンテーション		応急処置	情報の収集と交換		
実習**				メディカルチェック 小規模スポーツ教室 中規模スポーツ教室 大規模スポーツ大会	メディカルチェック 小規模スポーツ教室 中規模スポーツ教室 大規模スポーツ大会	中規模スポーツ教室 大規模スポーツ大会	メディカルチェック 小規模スポーツ教室 中規模スポーツ教室 大規模スポーツ大会	
報告								成果報告 課題と展望の 共有

演習\* 協力者(障害者)が参加しない体験的学習

実習\*\* 協力者(障害者)が参加し、一緒に行なうことによる体験的学習

学習ユニット  
1.3

## 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称: 障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

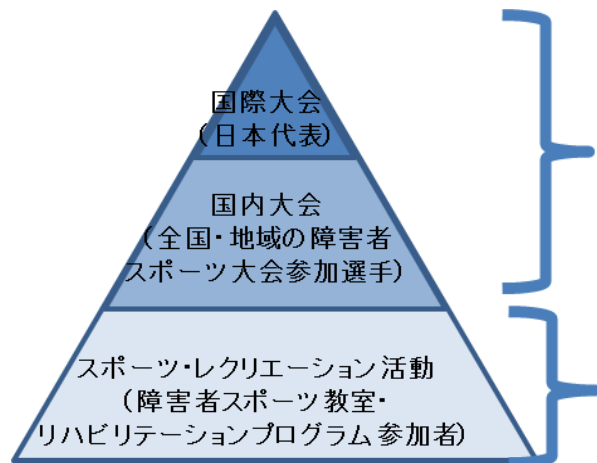
### 達成度評価基準・手法等のあり方のイメージ

スキル項目	カテゴリー		年 齢		障害・疾患		
	Category A	Category B	junior	senior	身体障害	精神障害	知的障害
スポーツ環境調整 (資源開発・運営)							
リスク管理							
効果判定							
スポーツ指導							

#### スキル水準

- I : 関心がある
- II : 経験がある
- III : 助言があれば実践できる
- IV : 1人で実践できる
- V : 人に指導できる

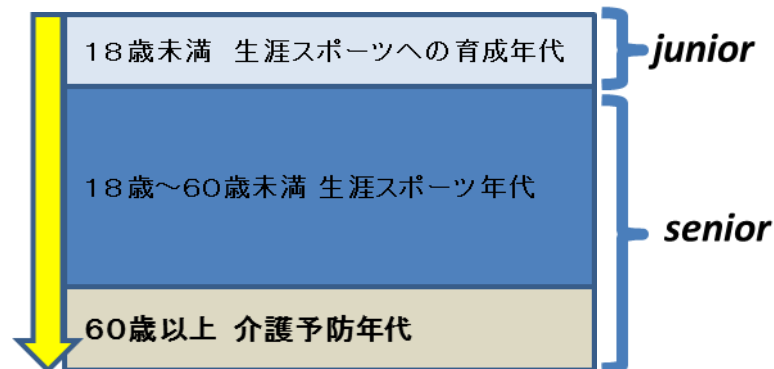
### 障害者の生涯スポーツの(社会)参加カテゴリー



競技スポーツ参加  
Category A

市民スポーツ  
リハビリテーション  
スポーツ参加  
Category B

### 障害者の生涯スポーツの対象年齢



## 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称: 障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

### 達成度評価基準

#### 【平成25年度モデルカリキュラムの場合】

	カテゴリー		年 齢		障害・疾患		
	Category A	Category B	junior	senior	身体障害	精神障害	知的障害
スポーツ環境調整 (資源開発・運営)		Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
リスク管理		Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
効果判定		Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
スポーツ指導		Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

#### 【平成26年度モデルカリキュラムの場合】

	カテゴリー		年 齢		障害・疾患		
	Category A	Category B	junior	senior	身体障害	精神障害	知的障害
スポーツ環境調整 (資源開発・運営)		Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
リスク管理		Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
効果判定		Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
スポーツ指導		Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

スキル水準 I: 関心がある II: 経験がある III: 助言があれば実践できる IV: 1人でできる V: 人に指導できる

## 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称:障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

### 各職域プロジェクト成果の活用イメージ

#### ○成果の活用Ⅰ

リハビリ専門職である作業療法士においては、求人需要が非常に高い専門職であるにもかかわらず、理学療法士や言語聴覚士などの他のリハビリ専門職と比べて養成校への受験者数は非常に少ない。長年続いている雇用のミスマッチを解決するために、作業療法士が障害者スポーツ分野へ参入することは、若者にとって魅力ある職業の一つとなり得るのではないか。このような業界団体のニーズを踏まえ、本事業で開発されたモデルカリキュラムを大阪リハビリテーション専門学校作業療法学科の正規課程に活用できるよう開発・実証を行う。また本学科は夜間3年生であることから、社会人の学び直し教育プログラムとしてキャリア転換に必要な学習システムとして構築していく。

#### ○成果の活用Ⅱ

事業で開発されたモデルカリキュラムの全国的な標準化を目指して、大阪府内以外の他の地域での実証が必要である。しかし、単に本事業で開発されたモデルカリキュラムを実証するだけでなく、障害者支援の専門家の多くを占め、かつスポーツの嗜好性は低い傾向にある女性を対象とした学び直し教育プログラムの開発・実証を行う。

また、生涯スポーツへ向けての育成年代である障害児専門家のキャリアアップを目標とした教育プログラムの開発・実証も行う。



## 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【医療・福祉・健康分野(職域プロジェクト)】事業名称:障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト  
(学校法人福田学園 大阪保健医療大学)

### 次年度以降の課題

#### ○高度専門人材育成

今年度本事業で開発されたモデルカリキュラムの受講生へ追跡調査を行い、フォローアップ教育システムを構築する。障害者スポーツ分野における中核的人材として必要な知識・技術は、達成度評価基準Ⅲまでとした(Ⅰ:関心がある Ⅱ:経験がある Ⅲ:助言があれば実践できる)。来年度以降は、障害者スポーツ分野における高度人材として必要な知識・技術を達成度評価基準Ⅳ～Ⅴ(Ⅳ:1人で実践できる Ⅴ:人に指導できる)と設定し、具体的なモデルカリキュラムと達成評価基準の開発・実証を行う。

学習ユニット4やCategory Aに対するモデルカリキュラムの開発はH27年度以降に行う。

#### ○ニーズ

調査本中核的専門人材の達成目標は、障害者が生涯にわたってスポーツへ参加できるよう支援できる人材である。しかし、現状では、生涯にわたってスポーツに参加している障害者はごく一部であり、多くの者がスポーツに関して参加する機会がないばかりでなく、苦手意識を持っている者も少なくない。そこで平成26年度は、生涯にわたってスポーツ参加している障害者へインタビュー調査を行い、障害者がスポーツを始めたきっかけや継続している要因を明らかにする。